

広島大学の学生としてヒロシマを伝える

北海道生まれ。沖縄育ち！ 被爆者との出会いから、広島大学へ

か よ う れ ぶ ん

嘉陽 礼文 収蔵展

～TOUCH 被爆の記憶～

爆心地、元安川周辺で発掘した原爆瓦、原爆ドームの実物破片を公開。実際に手で触ってみてください。

広島大学教育・国際室国際交流グループ研究員 37歳

中2の修学旅行で初めて広島を訪問した際、被爆者から直接、原爆の実相と悲惨な体験を平和公園で聞く。その際に「川へ行けば、まだ瓦や生活用品の一部が残っている」と聞き、亡くなられた方々を慰霊しようと元安川に行ったところ、一升瓶の破片と熱線で焼けた瓦を発見した。「将来は、広島に来て、また拾い集めたい」とその場で決意。無言で亡くなられた死者の魂を集めるように、原爆瓦を拾い続け、これまで19カ国、51大学、6博物館へも発送している。

● Profile ●

- 24歳 2002年、広島大学法学部夜間主コース入学 原爆瓦を採取し始める。
- 25歳 マツダ(株)入社 3年後、沖縄へ帰るために退社。
- 29歳 復学。他学部受講制度を利用して広島大学医学部の講義を受ける。
3年間で医学部専門単位 30単位を修得する。
- 32歳 法学部卒業。広島大学院社会科学部法政システム専攻修士課程入学
専攻は憲法 修士論文のテーマ「死者の人権について」
- 33歳 原爆瓦の展示式典に招待される。(ドイツ、オーストリア、台湾)
- 34歳 修士課程卒業後、広島大学院医歯薬保健学部医学専攻に入学
第1解剖学研究室で「正常解剖の人権に関わる法律と骨学」を研究している。
- 35歳 2013年、広島大学東広島キャンパス本部棟の玄関横に平和関連資料展示スペースを開設。
原爆瓦、溶解したガラス片、レンガなどを寄贈した。
- 36歳 クレーンで元安川より原爆ドーム外壁のひさし部分を発掘
広島大学霞キャンパス、医学部医学資料館1階にて公開中。(無料)

● 同時開催 ●

霞キャンパス歯学部1年生全員の平和発信の取り組み紹介

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ひろしま平和発信